

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401087		
法人名	社会福祉法人恵光会		
事業所名	グループホーム 南串山荘		
所在地	長崎県雲仙市南串山町丙10719番地		
自己評価作成日	平成 27年 11月 5日	評価結果市町村受理日	平成 28年 3月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4271401087-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 28年 1月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設が高台にあり町内が一望でき、眺めがとても良く心のやすらぎにつながっていると思っています。施設内には通所介護や特定施設などといった施設が併設されており、行事に参加したり散歩に行くなどして交流を深めていける様努めています。また、他部署との情報の共有もでき、協力体制をとることができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に同法人の有料老人ホーム「安心ハウス」と一つ屋根で繋がったデイサービスが隣接する当ホームは、お互いの施設を入居者・利用者が自由に行き来し、昔ながらの友達や、馴染みになった方との交流を楽しんでいる。職員は入居者へ優しい声掛けを心がけ、入居者に合った方言や、方言で話しながらも丁寧な声掛け等に配慮し、入居者の人格を尊重した対応に努めている。最近、重度化の為車椅子使用者が増えているが、デイサービスの福祉車両を借りて共にドライブに出かけたり、居宅職員と協働しながら、地域の方からの相談にも対応できるよう取組んでいる。日々行われているレクリエーションに参加している入居者からは元気な様子が窺えた。職員の暖かな雰囲気と入居者や他施設利用者達の自由な暮らしぶりから家庭的な雰囲気が窺えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

グループホーム南串山荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の見やすい所に理念を掲示し、職員が意識づけしながら実践している。	理念を常に意識し、一人ひとりにしてきた支援を膨らませコミュニケーションを多く取るよう、認知症の方にも安心して生活を送れるよう取り組んでいる。業務の流れで入居者と接する時間を増やし、コミュニケーションを増やせるよう工夫中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや運動会等の催し物に参加している。施設の夏祭りや敬老会はボランティアの方をお招きしている。	以前に比べると車椅子使用者が増えたが、隣接デイサービスの福祉車両を借りて町内の行事やドライブに出かけ、地域の方と交流を持てるよう取り組んでいる。地域の方からの相談にも、居宅職員を通じて家族に選択してもらえるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂いた民生委員や市役所職員の方に認知症の方の支援の方法等を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて施設での新しい取り組み等を紹介し、ご理解を頂いている。	行政・入居者・家族が参加し、状況報告やホームでの取組の紹介等を行っている。報告内容は、家族の了承を得た上で写真を使い、エピソードを添えて紹介している。また、職員の異動についての報告も行っている。会議に他の方も参加しやすいよう、時間帯の変更を検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、施設の業務報告などを行い、協力関係を築いている。	市町村とホームの関係は良好で推進会議で情報交換や質疑応答を行っている。職員が家族介護教室へ参加し、家族へ介護の方法を教える事もある。月に1度事例に基づいた話し合いにケアマネが参加し、ホームで職員と共に話し合い、日々のケアに活かすよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修や職員同士のミーティングの場で身体拘束禁止についての知識を深めている。	外部研修の資料を基に、職員ミーティングで知識を深めるよう努めている。また、言葉による行動抑止とならないよう職員同士で注意し、話し合いを行っている。現在センサーを使用している方がおり、家族に事情を説明し了承を得た上で本人が安全に過ごせるよう方法等を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修参加や職員同士で資料を持ち合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活支援事業や成年後見制度を利用している方はいない。研修や書籍で学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約についての説明を丁寧に行い、入居後もご利用者様とご家族様の疑問について納得される説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、家族会の開催、その他にご意見箱の設置、契約時に行政の苦情相談窓口の紹介を行っている。	面会時や意見箱を設置する事で、家族から意見や要望を聞けるよう取組んでいるが、家族との話をできていない部分もある事を認識している。年に1度の家族会が、家族同士の意見交換をする場としても活用できるよう職員で検討中である。	推進会議に関する簡易アンケートや推進会議で話した事、入居者について注意して欲しい事・家族も予防になる事等を解りやすく文書化し、お便り・議事録と共に配布する等、家族の意見・要望に繋がるよう工夫する事を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、職員のミーティングにて意見交換をしている。	職員のアイデアを反映し、配膳の仕方を改善したり、入居者個々に応じた車椅子を購入したり(不要な車椅子は法人内の他施設で使う)、入居者の趣味を活かした音楽鑑賞や茶道の時間を取り込んでいる。また、誕生日には家族を招待し本人と共に祝った事もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回、面談を行い、各自の目標設定や実施について話し合い、就業環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外問わず、研修には積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	雲仙市や島原半島連絡協議会に参加し、他施設の方と意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の不安、要望等環境が変われば大きくなる。それらを解消していけるように穏やかな対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族様の不安、疑問を伺っている。契約後も疑問点は説明を行い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様と面会をしてアセスメントを行い必要であれば他のサービスの紹介もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者様に応じたできることを見極め家事や作業を職員と一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と情報交換を行い、利用者様の若い頃の話等を伺い、支援の参考にさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設近隣に住んでいた方が多いので定期的にドライブへ行き、関係が途切れないようにしている。	隣接するデイサービスや安心ハウスの方が自由に来訪したり、デイサービスのレクリエーションに参加する事もある。また、自治会や老人会の方の慰問もあり馴染みの方との交流を図るよう取組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を考慮し、テーブルの席を変えたり、レクリエーションなどに参加を促し他者との輪の中に入って頂くように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出先でお会いした時等お声かけさせて頂き、近況をお伺いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の普段の生活・言動・表情等を把握し意向に沿えるように職員間でコミュニケーションをとっている。	様々な行事や避難訓練に参加した時の様子等から、入居者の状態や自力歩行が少なくなってきた方達の気持ちを把握するよう取り組んでいる。本人の現状と見守りとの見極めをしながら、ヒヤリハット係(3~4年前)を中心に記録を振り返りながら、思いを把握し支援に繋げるよう努めている。	ヒヤリハット体験は介護者の観察の表れであるとも考えます。記録し、できる事できない事から本人の思いや意向を深く把握し、介護計画に繋げる事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様・ご家族様にこれまでの生活歴を伺いケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアで観察を行い、気付いたことは他職員にも伝え現状を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を行い、ケアプラン原案の修正等、現状に即したものになるよう作成している。	担当者会議でケアプラン原案を基に、入居者個々の現状に即したものとなるよう修正しながら作成している。記載方法を改善し、気付いた事や個々への取組を記録し、チームとして実施できるよう職員間で情報を共有し、日々ケアに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事や取り組みを記録等に記入しチームとして実施できるよう、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内の事業所と協力体制を敷きながら利用者様、ご家族様のニーズに対応できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、老人会等の慰問を通じて楽しんで生活してもらえよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様が希望される医療機関に受診できている。その医療機関と連携をとり適切な医療を受けられている。	本人・家族が希望する病院へ職員が受診支援を行っている。自ら不調を訴える事ができる方がいないので、職員は配慮し、隣接安心ハウスとデイサービスの看護師へ相談しながら、協力医と連携して適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調変化に気付いたときには看護師に報告し、その指示を受けて受診などに繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には適切な情報を病院に提供し、退院時は病院からの情報を受け利用者様に安心して生活できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取りの事例はないが終末期についての方針を定められるようにご家族様と話し合いをしている。急な体調変化時に対応できるよう体制作りをしている。	基本できる限りの支援を実施しているが、医療がメインとなった場合は、かかりつけ医と相談しながら家族とその都度話し合いを行っている。今後は、必要に応じて緊急時に備えた研修会・勉強会を検討し体制作りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初級救急救命の講習をすべての職員が受けており救急時に対応できるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	施設にて避難訓練を消防署指導のもとで行っている。指摘があった部分は修正している。	年2回夜間に出火想定で、職員と入居者は(一部職員代替)共に訓練に参加している。隣接施設の職員と共同訓練を行い、有事に備えた連携構築に努めている。今後は災害(地震・水害等)に備えた訓練の実施方法を検討中である。	災害に備え自助が第一(まずは自分を助ける)と考えます。備蓄品を検討・準備し、一覧表を作成して消費期限・数量等、整理・管理する事を期待したい。また、有事の際の避難受け入れ先施設の検討をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重しプライバシーに配慮した言葉かけに努めている。	本人の意思を尊重するよう、無理強いしない柔らかな声掛けや、声掛けに対し拒否がある方は時間を変えて声掛けする等配慮している。接遇係を設置し毎月のミーティングで個々に合わせた方言や方言プラス丁寧な言葉かけも必要等の話し合いを行い、人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう取組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言動・行動・表情等から希望を推察し確認しながらケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者様のペースに合わせた1日の過ごし方をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生会の時などに化粧をしたり、その日に着る服等は選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルやお膳拭き、エプロンたたみ等、一人ひとりできることが違うのでそれに合わせて行っている。	職員は一部介助が必要な方、見守りが必要な方に配慮し、車椅子使用の方も普通の椅子に移乗し安全に食事ができるように取組んでいる。入居者の状態に応じ、おかゆ・ミキサー食・とろみ食を提供している。今後はお便りと共に食事メニューを配布する等検討中である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した食事を提供し水分や食事摂取量の記録をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い自分でできる方は磨いた後に職員が口腔内の観察をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間表で排泄チェックパターンを読んで、トイレ誘導の時間やオムツの種類を増やしてその人に合ったものを使用している。	入居者個々に合わせたトイレ誘導に心がけ、時間をずらして声掛けをしたり、食物繊維・乳製品・野菜中心の食事をする事で自然な排泄ができるように取組んでいる。座位保持が難しい方はプライバシーに配慮し、中で付き添う事もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便を促すため水分、食事摂取と適度な運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	福祉用具を活用し利用者様に安全な入浴を行い、各自の希望やタイミングに浴えるよう入浴介助をしている。	基本職員が1名で、重度の方や移乗時は2名で対応している。冬場はヒーターで暖めながら、状態に応じて浴室では福祉用具を使用している。また、本人が好きな歌を歌ったり、拒否をする方には「一緒に入ろう」と声掛けしたり、入居者の肌状態に合わせて入浴剤を使用したりと、個々にあった入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝かせきり又は起こしたままでいないよう、日中適度に臥床し夜間安眠して頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状書を各職員が確認して薬の作用・副作用に留意し変化があれば記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの種類を増やし、各利用者様全員の好みに合うレクリエーションができるよう毎日行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設近隣に住んでいた方が多いので馴染みのある場所へドライブに出かけている。	馴染みの場所へドライブや散歩に出かけたり、受診の帰りには入居者の希望に応じて買い物に寄る事もある。過去には葬儀へ参加できるよう職員が連れて行った事もあった。毎年お正月に帰省する方もおり、医師の指示・注意事項等を伝え、安心して帰省を楽しめるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお金を預かり、利用者様が好まれる物があればご家族様に了承を得て購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りができる利用者様はおられないが、職員が間に入って利用者様・ご家族様の関係を構築している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた空間で生活できるように配慮し、工作物等で季節感を出している。	リビングから見える中庭には花壇や畑があり、入居者は植物や野菜の成長を眺めたり日光浴を楽しんでいる。隣接デイサービスと繋がった建物で、入居者・利用者がお互いに自由に出入りができ、思い思いの場所でゆったり過ごしたり、友達と会話をしながら過ごす様子が窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や居室、ホールのソファ等でリラックスしたり利用者様同士の交流の場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が居心地よく過ごせるように使い慣れたベッドや家具、またはその置き場所を固定し休んで頂いている。	ベッド・筆筒・洗面が設置された居室には、使い慣れた寝具や衣類を持ち込み、居心地良く過ごせるよう取組んでいる。居室にも本人の作品や写真等を掲示する等、思い出を楽しむ時間が持てるよう検討中である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に大きな名札の設置、又はリハビリや安全な移動にも使用する手すり等、安全かつ自立した生活を送って頂いている。		